

設計調書： ⑪ 共同溝詳細設計

共同溝詳細設計調書（その1）

(/)

業 務 名			路線名			受 注 者 名		
			所在地			照 査 技 術 者		
共 同 溝 名						管理技術者		
			事務所名			作成年月日		
設 計 箇 所	起点側					終点側		
延 長	m		幅 員		構 成			
設計活荷重			共同溝が車線に位置するか明記する					
予 備 設 計	有 ・ 無							
適用示方書	(年 版)							
特 殊	交 差 物 件	対 象 物	測 点	離 点	対 策 方 法	摘 要		
	近 接 施 工							
検 討	地下埋設物							
	本体縦断検討	有・無	コントロール					
	大規模山留	有・無	個所数		深さ			
	耐震設計	有・無	対策	有 ・ 無				
	安定検討	有・無	個所数		対策	有 ・ 無		
基 本 照 査 事 項	その他の	有・無	種 別		対策	有 ・ 無		
	現地調査の結果が設計に反映されているか							
	線形（平面、縦断、横断）と道路との位置関係の再照査							
	ボーリングの位置、各種試験データ、地質柱状図の標高の確認							
	交通処理計画が適正に行われているか							
	埋設物（既設、計画）との位置関係が検討されているか							
備 考	内空断面は確認済みか（占有企業者）							
	地下水位の設定は適切か							
	地盤の液状化判定及び対策の検討がされている							

基 本 照 査 事 項	特殊部の位置は適正か					
	換気口の位置及びピッチが検討されているか					
	官民境界との離隔は1. 0 m以上確保されているか				m	
	一般部の土被りは2. 5 m以上確保されているか				m	
	特殊部の土被りは道路管理者との協議・承認がされているか				m	
	一般部の縦断勾配は0. 2 %以上確保されているか				%	
	仮設工法の検討は適正に行われているか					
	最終計算結果と設計図の寸法、主鉄筋、主鋼材の再照査					
	数量計算は必要項目（種別）が計上されているか					
図面表示（起点、終点、I P点、ブロック割、その他）の有無						
使 用 材 料	材 質	コンクリート設計基準強度		鉄 筋		
		$\sigma_{ck} = \text{N/mm}^2$		S D =		
	許容応力度	鉄 筋 引 張 り		コンクリート曲げ圧縮	コンクリートせん断	
		$\sigma_{sa} = \text{N/mm}^2$		$\sigma_{sa} = \text{N/mm}^2$	$\tau_a = \text{N/mm}^2$	
標 準 断 面 図	各公益事業者毎の収容物件の条数を明記し、必要内空寸法を明示する。					
備 考						

共同溝詳細設計調書 (その2)

(/)

ブロックNO.		NO. ブロック (標 特 換) l = m				NO. ブロック (標 特 換) l = m							
躯体材料		コンクリート(Q)	m ³	鉄筋(R)	kg	コンクリート(Q)	m ³	鉄筋(R)	kg				
		R / Q	kg/m ³	型枠(F)	m ²	R / Q	kg/m ³	型枠(F)	m ²				
工 軀	上床版 ①	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m				
		Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)	Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)
		σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²	σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²
	中床版 ②	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m				
		Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)	Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)
		σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²	σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²
	下床版 ③	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m				
		Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)	Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)
		σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²	σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²
側 壁 ④	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m					
	Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)	Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)	
	σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²	σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²	
中 壁 ⑤	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m	部 材 厚	cm	使用鉄筋	D - 本/m					
	Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)	Mmax=	kN・m	N=	kN	S=	kN(τ max点)	
	σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²	σ c=	N/mm ²	σ s=	N/mm ²	τ max=	N/mm ²	
概 略 図		単 断 面 ①				複 断 面 ①							

共同溝詳細設計調書 (その3)

(/)

ブロック総延長 $L =$ m

ブロックNO.		NO. ブロック (標 特 換) l = m						NO. ブロック (標 特 換) l = m						NO. ブロック (標 特 換) l = m									
仮	規 模	巾	m	深さ	m	中間杭	有・無	巾	m	深さ	m	中間杭	有・無	巾	m	深さ	m	中間杭	有・無				
	部材名	形 状 寸 法			実応力度		許容応力度		形 状 寸 法			実応力度		許容応力度		形 状 寸 法			実応力度		許容応力度		
	覆工受けた				MN／m ²		MN／m ²					MN／m ²		MN／m ²					MN／m ²		MN／m ²		
	け た 受 け																						
	腹起し																						
	切ばり																						
	腹起し																						
	切ばり																						
	腹起し																						
	切ばり																						
工 設	山留め																						
	根入長の決定	鈎合、ヒービング、 ボイリング、支持力			根入れ長		m		鈎合、ヒービング、 ボイリング、支持力			根入れ長		m		鈎合、ヒービング、 ボイリング、支持力			根入れ長		m		
	中間杭	形状寸法×長さ							形状寸法×長さ							形状寸法×長さ							
	切 梁 プ レ ロ ード の 有 無				有 ・ 無				切 梁 プ レ ロ ード の 有 無				有 ・ 無				切 梁 プ レ ロ ード の 有 無				有 ・ 無		